2021年11月1日発行 通巻第79号

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol. 79
2021 霜月・師走

特集／開祖生誕110年を記念して（第三部）

― 組織の発展と開祖が遺したもの

特集

開祖生誕１１０年を記念して（第三部）

――組織の発展と開祖が遺したもの

金剛禅開祖 宗 道臣 生誕１１０年の節目の年に際して、三部作で開祖の特集を組んでいます。戦後の混乱期を疾風のごとく駆け抜け、現代に金剛禅思想を打ち立てた開祖。多度津を拠点にスタートした運動が、その後、東京、大阪を中心に広く日本全国に展開されていきました。今号は最終回として、組織化後の歴史と遷化に至るまでの足跡を追っていきます。

開祖を支えた後援者たち

開祖の大陸的で大らかな人間性は幅広い分野の人たちと交友の輪を広げていきました。開祖が金子正則香川県知事（当時）に出会ったのは、１９５０年前後。金子氏は、少林寺拳法が科学性も合理性も備えた最高の護身術だと直感し、しかもそれを修行しているのが、ごく普通の市民生活を営んでいる人々であり、開祖の魅力も含め少林寺拳法に将来性を感じたといいます。

以後、互いの信頼関係は深められ、金子知事は陰になり日向になり少林寺拳法を支え、開祖の生涯を見守る一人となりました。組織の成長過程をつぶさに見てきた金子氏にとって、組織の成長とともに成長する開祖の姿は、生涯忘れられないものとなったといいます。

1967年、開祖と金子正則氏

１９５４年５月には、高松城披雲閣にて旧高松藩主の末裔である松平頼明（よりひろ）氏との劇的な邂逅がありました。この松平氏の尽力によって、氏が会長を務める松平公益会より、高松市内に別院用の土地が無償で提供されることになったのです。

松平頼明氏と開祖が初めて出会ったのは、開祖と数人の拳士が高松城披雲閣で演武を披露した時でした。少林寺拳法に半信半疑だった松平氏の視線を感じた開祖は、「受け身はできますか」と尋ね、松平氏が「受け身はできるつもりです」と答え、開祖の手を握った途端、氏の体が宙に舞い、見事に投げ飛ばされたそうです。そのとき開祖は、「お殿様、失礼しました。世が世ならお手打ちものでございますね」と冗談を言い、松平氏はあまりにも見事な投げ技に感動したといいます。演武を見た後も開祖と長い時間お話をされ、「この人は本当に日本を救える人だな」と思ったそうです。以来、二人の親交は深まり、少林寺拳法発展の大きな力となっていただきました。

1970年、松平頼明氏と開祖

人づくりのため創始された少林寺拳法は、京都の古刹臨済宗法輪寺の高僧の心を捉えました。１９５９年神戸で

行われた奉納演武で少林寺拳法を知った妙心寺派の末寺法輪寺、通称達磨寺の後藤伊山師が多度津の本山を訪れ、自己確立の行として、少林寺拳法をぜひ取り入れたいと申し出ました。伊山師は肉体を養いながら精神を修めることこそ、達磨大師伝来の拳禅一如の教えであるとし、法輪寺の境内を道場開設のため、90年間無償で提供したいと申し入れました。

道場は法輪寺の檀家である坂口繁蔵・千代夫妻の全面的な協力を得て、1961年12月に完成、開祖が直々に指導する京都別院として誕生しました。完成した道場の祭壇には、仏師の松久朋琳氏が彫った達磨大師と仁王像が奉安されました。

1962年、後藤伊山老師と開祖

1961年、開祖と坂口繁蔵氏

現在、京都別院は廃院となっていますが、京都での少林寺拳法の発展は京都別院の出身者が中心となったことは言うまでもありません。

京都別院の祭壇にあった達磨大師と仁王像は現在、本山錬成道場の祭壇に安置されています。制作したのは大阪四天王寺の仏師である松久朋琳氏です。特に仁王像は、松久氏が開祖をモデルにしたもので、開祖自身が上半身裸になり、文字通り「仁王立ち」となって様々な構えをして見せました。筋肉の張り具合から、足のつま先まで、その躍動感は見事なものだったと松久氏は述懐しています。

拳士の増加と各道場の完成

1965年1月、当時の拳士達が熱い眼差しで待ちかねた金剛禅のメッカとしての総本山、少林寺拳法の総本部にふさわしい錬成道場の建設事業が具体的に始まりました。拳士数の増加と全国指導者講習会でも、希望者の三分の一も迎え入れることができないほど、当時の本部道場は手狭になっていました。

そして1966年12月。眼下に讃岐平野を一望する桃陵公園の一角に鉄筋コンクリート造二階建て延2100㎡の錬成道場が完成します。

1967年、錬成道場落成式

錬成道場の落成式には金子正則氏、松平頼明氏をはじめ地元関係者が多数詰めかけ、少林寺拳法の新たな門出となりました。開祖も人生最良の年と語っているように、開祖の想いが1つ1つ形になっていった時期でもありました。

ただ、この錬成道場もすぐに手狭となり、4年後の1970年7月には、新たに第二錬成道場(本堂)が落成しました。落成式には松平頼明氏の紹介により三笠宮崇仁親王殿下のご台臨を仰いでいます。さらに、1974年6月の第三錬成道場(講堂)の落成と、立て続けに本山敷地内に道場が落成しています。

1970年、本堂落成式

もともと開祖の中には、建物も組織発展の大きな要素であるという認識がありました。ことあるごとに、「一升の桝には一升の水しか入らない、器が小さければ盛る中身も小さくなるしかない」と語っていました。組織が大きくなり、開祖がさらに未来の飛躍に向けてより大きな器を求めたのは当然のことだったと言えます。

中国とのつながり

1973年日中両国の末永い友好関係の礎石として廖承志（りょうしょうし）氏を団長とする中日友好協会の使節団が来日しました。

中華全国体育総括責任者李青川氏（左）中日友好協会会長廖承志氏（右）と会談する開祖

少年時代から青年時代の大半を過ごした開祖の中国への想いは計り知れないものがあり、日中友好を担う次世代の育成にかける思いを廖承志氏ら中国側の要人に語りました。その後、中国との友好関係を進める具体的な行動は、事あるごとに積み上げられていきました。「日中の友好なくして、アジアの平和はあり得ず、アジアの平和なくして世界の平和はあり得ない」と開祖は口癖のように言っていたといいます。

少林寺拳法創始から30年余りが過ぎた1979年、組織として4回目となる訪中が行われました。その訪中において、開祖は少林寺拳法のあり方のヒントを得た中国河南省の嵩山少林寺へ、実に44年ぶりとなる念願の里帰りを果たします。嵩山少林寺に外国人が入るのは第二次世界大戦後初めてであり、開祖は最大級の敬意で迎えられます。

翌1980年4月には開祖の帰山を記念した顕彰碑が嵩山少林寺の境内に建てられました。

開祖が誇りとする思想と技法を基にした人づくりの活動が海を越えて認められたのです。開祖にとって最後となった第6次訪中では、生きて自らの顕彰碑に立つ感激と、すでに100万人に達していた拳士たちの誇りを胸に、嵩山少林寺の釈徳禅和尚と手を取り合って、除幕式のリボンに手をかけました。

釈徳禅和尚と自らの顕彰碑に立つ開祖

万感迫る思いを胸に帰国した開祖はその直後の5月12日、帰らぬ人となりました。たった5畳半の道場から始まった少林寺拳法は多度津の地から世界へと、世界39か国に広がり、延べ180万人がその門をくぐっています。

その志は第二世師家宗由貴を経て、現在、第三世師家宗昂馬に引き継がれています。

冒頭にもありますように、今年は宗道臣生誕110年に当たります。誌面では紹介しきれなかったこともたくさんあります。少林寺拳法五十年史や開祖の著作である少林寺拳法教範を基に開祖に触れる機会を多く持ちたいものです。

1980年、本堂において開祖の告別式

寄付金額3、000円以上の希望者に、返礼品として少林寺拳法五十年史（正史のみ）を贈呈させていただきます。（在庫限り）／問合せ先：一般財団法人 少林寺拳法連盟

開祖語録
ダイジェスト

1972年2月
新設道院長・支部長講習会

そんなあり方にどんな価値がある

昭和16（1941）年、当時陸軍大臣だった東條英機が「皇軍道義の高揚」のためとして示達した『戦陣訓』には、「生きて虜囚の辱めを受けず、死して罪禍の汚名を残すことなかれ」とあった。しかも拒否したら、本人だけじゃない、親兄弟から親戚までが国賊だと言われた。

こういう恐怖・脅迫に支えられ、にもかかわらず「尊い」とされたのが、かつての日本の団結でした。人格どころか、人間としても認めていない、そんな団結、もう一度あったほうがいいか。私は嫌だし、誤りだと思う。

けれど、似たような状況が、われわれの中にも旧態依然、いまだに残り、闊歩している。憎しみとか卑屈さを隠した団結や、他人をやっつけることで己の値打ちを維持しているようなそんなあり方にどんな価値があるだろう。「私を敵だと思ってかかってこい」。一部の武道家とかが、「鍛えてやる」と称して好んで使うセリフだ。ほんとうは単なるシゴキやイジメ、厭み、あるいは自分のエエ格好しいでしかないかもしれないのに、鍛錬とか修行とかオブラートに包んだことばを言いたがる。われわれだって、自分らを見つめもせず、他の批判や評論ばかりしていると、いつの間にか同じことになりかねない。「われわれだけは例外」はありえないのです。自分の「力」を客観的、つまり謙虚に知っていたら、驕りではない自信が養われるはずです。そして、そういう実力で、後輩や若い人たちを育てる努力をすればいいのに、己を知らず、また知ろうともしないから、ただエラそうに抑えつけ、威張るだけになってしまう。

もっと自分を素直にさらけ出し、その上で、自分にもあるであろう、人間としての長所を見つけるようにすべきだと思う。

他人が自分を越えて成長、向上していくことを妬むなよ。他人を妬む気持ちが強いような人は指導者に向かないし、ましてや弟子が育つのを阻むなんていうのは最低だと言いたい。

絵本で広げよう
金剛禅
プロジェクト

福岡大野城道院
道院長　松田和子

絵本の入ったバッグ

私が修練に持っていくバッグには、いつも絵本が２冊入っています。

以前は、絵本を読む時間を毎月１回程度に決めていたのですが、最近は、修練の様子を見て「絵本を読もっか？　どっちの絵本がいい？」と声をかけて読むことが増えました。

全員の前で読むこともあれば、小さな子達のグループの修練内容として読むこともあります。小学生や中学生が読み手になることもあります。

絵本の読み聞かせを行うようになって、絵本に限らず修練のあり方を広く考えられるようになりました。修練はこうあるべきという固定観念にとらわれていたことにも気づかされました。私自身の心の有り様にも敏感になったように感じます。何より、子供達とのコミュニケーションツールとして活躍してくれています。

入門間もない拳士に絵本を読むと、子供達との心の距離がグッと近くなり、親御さんも安心されるようです。絵本の入ったバッグ、なんだか温かいですよね！

最近読んだお薦めの絵本

◎「ムニャムニャゆきのバス」

作：長新太
出版社：偕成社

ムニャムニャゆきのバスがやってくる。ムニャムニャをめざして。なにかがおりるとブザーがなるよ。
「ベエー ベエー」。
ムニャムニャゆきのバスは、どこにいくのかって？
わからないからおもしろいんじゃないの。

法を問い学を修める

vol.77

文／藤井 省吾

組演武について―易筋行に関する一考察―

開祖は『教範』において、「少林寺拳法に関する限り、……あくまで法形の組演武を主体として演練すべきである。」「少林寺拳法の最も大きな特徴は、法形組演武を通じて人格を陶冶し、相手と共に進み、相手と共に上達を楽しみ、自他共楽の道として楽しく修行できるところにある。」と述べられています。開祖が、〝修練の主体〟と位置付けられる組演武について、先達の教えと体験をもとにその効果を考察します。

法形の修練も含め、演武修練の基本は、「決められた形を二人で繰り返す」ことにあります。それが心を養うこととどのような関係があるかを見ていきます。

繰り返しの中では、「技を、感情と切り離して『現象』と観る」ことを心掛けるとよりよい効果が得られると思われます。修練では、相手の攻撃のタイミングが速くて突きが顔面に触れた、柔法で相手が変化して技がうまく掛からなかった、間合いが詰まった、などうまくいかない、自分の思い通りにならないことが起こります。そんなとき、つい不満や怒りを相手に向けてしまうことがあります。しかし、そこで敢えて技から感情を切り離し、うまくいかなかったのはあくまで二人の間に起こった技術的な「現象」と考えれば、修正や上達の方法も見つかり、失敗に引きずられることなく次に進むことができやすくなります。

縁起の法則では、すべてのことは縁によって起こり、他のものとの関わりによって起こっているという意味で「実体」ではないと考えます。私たちの周りのすべても、縁によって起こり、縁によって変わるという「現象」です。失敗や思うようにならないことを「実体」と見て相手への不満を助長するのではなく、冷静に「現象」を見つめて、縁（条件）を変え、「現象」を変えていく（しかも相手と一緒に）ことの大切さを修練から学ぶことができます。

また、「二人で繰り返す修練」による精神集中は、あれこれと妄想しやすい心のはたらきを抑え、「現象」をありのままに見つめるためにも有効です。ものごとが相手との関係性によって成り立っていることを深く実感することは、仏教でいう智慧や慈悲の心を養うこととも無関係ではありません。

さらに、この修練は、「刺激から感情を切り離す」モードチェンジの訓練とも言えます。日常でもそれができれば、他者から発せられる不合理な言葉やふるまいに対し、それを「現象」と捉え内容をしっかりと把握して、理性的で的確な対応に繋がっていくのではないでしょうか。

なお身体面では、よりよい動きが無意識にできるようになるまで何度も繰り返します。『教範』の「修行の心得」（基本を学ぶこと）に「基本が充分になせるようになったならば、……心を用いずして自然に手足が動くようになるものである、沢庵禅師はこの境地を次の如くうたっている。『手足身が、かたくおぼえたその術は、心は更にいらぬものなり。』」とあります。形を繰り返す修練によりこのレベルを目指すべきとのことなのでしょう。

組演武というと大会での自由組演武や昇格考試の規定組演武をイメージして少し縁遠いものと感じることがあります。しかし組演武は、身体と心を変え、その奥にある霊性を高める「易筋行」として効果的な行法であると捉え直し、日々の修練において淡々と行っていくことが大切です。

「技から感情を切り離す」といってもそう簡単ではなく、修練においては、やりにくい人とは極力避け、やりやすい人と組むなど、感情に左右されることも多いのですが、そういった修練にチャレンジする価値はあるのではないかと思うのです。

宗門の行

このコーナーでは易筋行が人づくりの手段たりうるために、調和の思想やダーマ信仰、三徳(護身練胆、精神修養、健康増進)、修練方法、身心の用い方等を切り口として、日々の修練と日常生活がリンクするように、易筋行とは何かを考察していきます。

広報誌「あ・うん」Vol.77では、修練時に使われる説明内容や言葉、また修練時にどのような意識をもって修練相手と向き合うべきかを考えてみました。今回は、修練で繰り返す動作とその動作を繰り返すことによって意識がどう作用するかを考えてみます。

受けて応じる

少林寺拳法は護身の技術としての修練を通して自信をつけ、かつ他人の上達や幸せも考えられる人間になることを目指しています。そして、そのことが自己確立、自他共楽の道につながっています。たとえば、攻者役の時には、自身の身体を提供し、相手の上達のために自ら誘導してあげたり、技によっては痛い思いをしたりすることも厭いません。次には攻守を交代し、協力して共に上達を図るシステムになっています。このような修練を繰り返すことにより、相手のことを察したり気遣ったりする力が養われ、ひいてはこの考え方が日常生活でも活用されるようになります。

さて、修練と日常のつながりについて簡単に確認したところで、次に日頃の修練についてより具体的に確認をしてみましょう。今回は、〝受けて応じる〟という守者の技術修練と日常生活について見ていきます。

剛法の修練では、攻撃をまず躱し、そして受けの動作を徹底して繰り返します。この修練を通して、自分の身が護れるという体験を積み自信をつけます。次の段階では、攻者の動作に合わせて反応し、反撃までつなげられるように修練します。法形が上手くこなせるようになると、攻撃の約束事を少しずつ緩める運用法の修練を行います。運用法では、様々な攻撃からも身が護れることを通して自信を深め、やがては平常心を養うことにもつながっていきます。

つまり、〝受ける〟、〝受けて応じる〟という動作を繰り返すことで、平常心を養っていくのです。そしてそれは、日常生活において様々な課題に遭遇した場合でも取り乱すことなく対応できる心構えにもつながるのです。

反撃動作に重点を置くと

ところが、中には前述のように守り、受けることよりも、反撃や相手を制することに重点をおき、反撃の極めに至る動作を主に繰り返して修練している人も見受けられます。

このように、反撃動作に重点を置くことにより、〝受ける〟という意識が薄くなってしまう危険性があります。そして、早く反撃を極めようとか、威力のある反撃をするにはどうすれば(どのような極め方が)良いかという考えが芽生えてきます。さらには、守るという考え方ではなく、相手に勝つためにはどうするべきかを考え、反撃動作が中心の修練となっていく可能性もあります。

これが高じると、相手を制するためには先制攻撃・先手必勝もあり得るという考えにつながりかねません。こうなると、受けて応じて身を護る技術というより、相手を倒すための技術ということになり、もはや護身の技術を通して教えを身につけるための修練ではありません。

これは極端な例かもしれませんが、まずは少林寺拳法の特徴である守主攻従の原則を守って、正しく修練に取り組むことが必要不可欠だと言えるでしょう。

今回は、〝受ける〟、〝受けて応じる〟という動作を重要視する修練と、〝反撃動作〟を重要視する修練における意識の違いについて見てきました。私たちの修練はあくまでも教えを身につけるためのものでなくてはなりません。そのためには、攻者も守者も意識の持ち方が大切です。これからも、護身の技術という修練形態を用いながら教えの理解を深めていきましょう。

(中川　純)

DISCUSSION

さらに考察を深めるため

- 守者の時、受けて応じることを意識して行っているか確認してみましょう。
- 運用法の時には、「相手に勝つ」という意識ではなく、「様々な攻撃に対応できるか」という視点で取り組みましょう。
- 修練の終わりに、「人づくりの行」として実のある修練であったか振り返ってみましょう。

道院長

元気の素

長崎県・諫早東道院
道院長　栗林　伴式（47歳）

道院長になろうと思ったきっかけ

私は8歳の時に現在の諫早東道院に入門しました。その後10年ほど修行した後に故郷を離れ、それと同時に少林寺拳法からもしばらく離れていました。数年後、運動不足もあり、もう一度武道を始めようと近隣の他武道の道場を何カ所か見学しました。しかし、なぜなのかは分かりませんが他武道を実際に見て、様々な説明を聞いても、しっくりこなかったのです。そこで今一度原点に立ち返り、少林寺拳法の道院を探し浦一道院長（福岡中央道院）の下で修行を再開しました。福岡中央道院での数年間の修行を通じて、浦道院長の少林寺拳法に対する姿勢や、周囲の人々への接し方を目の当たりにし、まさに自他共楽を地で行く人間性に深く感銘を受け、道院長になろうと決意しました。その後、仕事の都合で故郷に帰り、元の諫早東道院に転籍しました。故郷で新道院の設立を考えていたのですが、諫早東道院の前道院長より交代の申し出を受け、道院長になりました。

道院での指導

人間は顔形が違うように、皆それぞれが違います。門信徒一人ひとりに合った指導の方法や伝え方などを常に考えながら指導するようにしています。将来この可能性の種子たちが広い社会で大いに活躍していけるように導いています。道院という小さな社会を通して仲間と修行することの楽しさや、人と接し相手を敬うことの重要性などを学び、常に相手の立場に立って物事を進めることができる能力を身につけ、そして周囲の人々と調和していける人間に育ってくれるように努め、指導にあたっています。

道院長としての今後の目標

道院長としては、できる限り組演武を続けていこうと思っています。門信徒の手本となるように常日頃から道院長である自分自身が動いている姿を門信徒に見せ続けるということが大切だと思っているからです。幸せなことに、私には演武を組んでくれるパートナーがいます。15歳年下なので少々体力的には苦しい時もありますが、自分の体力をうまくコントロールしながら、技術面、精神面ともに「老練」の域に達することを目標に今後もより一層内容の濃い修行に取り組んでいきたいと思っています。

道院長としての幸せ

道院長として幸せに感じるのは、たくさんの子供たちの成長を見続けることができるということです。入門時には右も左も分からなかった子供たちが、少しずつしっかりとした「お兄ちゃん」「お姉ちゃん」に成長し後輩の指導ができるようになる。そうした、教えたり教えられたりする繋がりの中で調和の思想を学んで行く姿を見続けることができるということに幸せを感じます。そして将来、この門信徒たちが道院で学んだ調和の思想を一般社会で大いに発揮して、周囲を幸せにしていけるリーダーに成長していく姿を夢見ることが私の道院長としての幸せです。

夢の専有道場

道院長になろうと決意した時から、専有道場は夢でした。道院長になってからはどうすれば専有道場を持つことができるか、ということを常に考えていました。そんな折、会社である程度のポジションを頂いたので、新社屋設立プロジェクトを立ち上げ、そこに多目的ホールと称した空間を組み込みました。このホールが専有道場です。夢を叶えるには7年かかりましたが、現実のものとなりました。

道院長の世界を見てほしい

私は「経験に勝る学問は無い」と思っています。どんなことでも経験して初めて身につくと思っているからです。また「人間が立場をつくるのではなく、立場が人間を育てる」というのも私の経験上の見解です。道院長という新たな立場が、その立場に立った人間を道院長へと成長させてくれます。道院長という目指すべき目標があるのであれば、とにかく前へ進み経験を積んでみてください。その先には一歩踏み出した者にしか見ることができない新たな世界、およそ9万人に1人といわれる「道院長の世界」が待っています。

←諫早東道院HP

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

研修会・講習会（地方）開催報告

●小教区研修会
［7月10日］愛知西三河第一小教区
［7月18日］奈良桜井小教区
［8月29日］静岡西部第二小教区

緑の輪袈裟

青森南道院

新春法会の様子です。
（道院長　長内哲男）

鎌倉道院

入門式の様子です。
（道院長　笹井清司）

福島中央道院

入門式で使用しました。
（道院長　尾形省二）

少林寺拳法 全国女性拳士 交流会 in 九州

● 日時 2021年11月27日（土）

10:00～12:00 技術講習会
13:00～16:00 全国女性拳士交流会
18:30～21:00 懇親会（予定）

● 対象 高校生以上の女性拳士（武階問わず）

● 参加費
直接参加・一般拳士…3,000円（弁当付）
直接参加・学生……2,000円（弁当付）
オンライン参加……1,000円
懇親会……4,000円（予定）

● 場所 大野城市総合体育館

車の場合　：福岡空港より15分
九州自動車道・太宰府IC より5分

電車の場合：JR 博多駅から会場最寄りの大野城駅まで快速電車で10分

※JR大野城駅から会場まで送迎あり
技術講習会から参加…8:30～9:30
交流会から参加…11:30～12:30

【申込・問合せ先】
メール：imugemadon@vega.ocn.ne.jp
FAX：092-404-4315
実行委員長携帯：090-4516-5971（日中でもOK）
※メールもしくはFAXで申込書（下記URLまたはQRコード）を送付してください。
https://www.shorinjikempo.or.jp/religious/wp-content/uploads/2021/09/WomanTrainingSession2021.pdf

投稿大募集　〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48　金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛　TEL.0877-33-1010　FAX.0877-56-6022
e-mail：aun@shorinjikempo.or.jp　※投稿記事は400字を目安とし、名前、所属、連絡先を忘れずにご記入ください。なお、誌面の都合上、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。ホームページには誌面以外の投稿も掲載しています。

道院認証

認証おめでとうございます。

●交代

■2021年9月1日付

三田南道院　石井 孝一

僧階昇任者

昇任おめでとうございます。

権大導師

■2021年8月1日付

近内 俊介（湘南葉山道院）
岩田 康男（湘南葉山道院）
宮城 稔（榛南道院）

中導師

■2021年8月1日付

髙橋 哲夫（苫小牧中央道院）
佐藤 剛司（北海道余市道院）
阿部 健一（平道院）
中谷 茂城（横浜子安道院）
矢ケ崎 真美（山梨峡東道院）
浅山 泰幸（坂出久米道院）

■2021年9月1日付

小竹 繁夫（黒部道院）
中村 謙吾（黒部道院）
柴田 伸二郎（名古屋吹上道院）

権中導師

■2021年8月1日付

井関 研二（中板橋道院）
岩井 正純（東京辰巳道院）
立入 寿生（川崎西道院）
田中 海雄（横浜片倉道院）
中田 泰三（播磨山崎道院）
村上 美紀（大和桜井安部道院）
原田 勝秀（大和桜井道院）
弓削 貴志（福山東道院）
澤永 和英（光峨嵋山スポーツ少年団）
松岡 哲也（岩国元町スポーツ少年団）

少導師

■2021年8月1日付

堀田 怜央（帯広中部道院）
金森 遼（札幌あいの里道院）
太田 博（岩見沢北道院）
小林 吉一（岩見沢北道院）
島田 昌寛（茨城神栖道院）
小川 洋（茨城神栖道院）
関口 道明（茨城三和道院）
氏家 大（栃木鹿沼道院）
阿久津 潤（栃木鹿沼道院）
串田 佳祐（栃木鹿沼道院）
一場 久遠（渋川道院）
保坂 諭志（埼玉鶴瀬道院）
天田 瑛一郎（埼玉鶴瀬道院）
赤堀 元一（武蔵浦和道院）
赤佐 裕幸（市川若宮道院）
森澤 和美（市川若宮道院）
小石 征克（東京東品川道院）
渡辺 宏綱（東京洗足池道院）
萩原 好夫（八王子松枝道院）
松田 行裕（東京辰巳道院）
藤原 豊樹（東京大塚道院）
畑中 我海（東京大塚道院）
山下 弘二（東京府中西道院）
市川 智哉（東京府中西道院）
岩本 朝人（金沢文庫道院）
大室 悦子（川崎柿生道院）
川島 萌絵（川崎柿生道院）
及川 夕菜（川崎柿生道院）
小川 智和（相模原南道院）
内田 昌治（相模原南道院）
中村 和平（横須賀馬堀道院）
吉川 美根子（海老名国分道院）
吉野 卓（海老名国分道院）
蓮池 亮文（藤沢東道院）
岩佐 光（新潟村上道院）
小林 芳治（新潟赤道道院）
才田 治奈（金沢東道院）
矢崎 正悟（山梨峡東道院）
松下 洋夢（三方ケ原道院）
小栗 主暉（四日市道院）
金児 直保（松阪西道院）
前田 陽介（松阪西道院）
高山 秀幸（三重白山道院）
大村 岳徳（三重白山道院）
森川 雪乃（洛東道院）
スチュワート 海（京都修学院道院）
八木 徳秋（大阪伊吹道院）
佐古 員規（熊取西スポーツ少年団）
吉田 周邦（宝塚西道院）
安原 銀次（児島西道院）
面田 高章（児島西道院）
面田 俊輔（児島西道院）
保田 冬夜（児島西道院）
菊地 裕子（福山東道院）
松原 栄一（広島毘沙門道院）
伊藤 可奈子（広島毘沙門道院）
中居 弥玲（広島毘沙門道院）
山崎 敦士（阿南橘道院）
神浦 翔也（徳島渭東道院）
宮崎 克哉（阿波市場道院）
塩見 武和（高松東道院）
淺井 健二郎（高松東道院）
野口 耕平（高松木太道院）
藤原 碧（坂出専修道院）
谷 雄生（坂出専修道院）
石川 達也（中曽根道院）
井上 仁（中曽根道院）
梶 友樹（中曽根道院）
青木 孝樹（伊予松前道院）
渡部 僚太（砥部大南道院）
前田 志津子（北松福島道院）
金城 一輝（沖縄南山道院）

お布施

心より感謝申しあげます。

布施

▷東松山道院	倉田 健治	20,000円
▷豊田末野原道院	服部 俊美	10,000円
▷愛知吉良道院	加藤 孝	10,000円
▷岡崎中部道院	加藤 俊彦	10,000円

編集後記▶３回シリーズの企画「開祖 宗 道臣生誕110年記念特集」も本号をもってひとまず完結する。少林寺拳法創始の動機と目的、その根本思想である金剛禅はどのような境地を目指しているのか。事あるごとに原点を確認し、自己のゆるぎない信念として確立させたいものである。▶新型コロナウイルスによる災難によって、私たちの日常生活は大幅に制限されている。なかには、みずからの生命に関わるほどの被害を受けた方もあろう。あるいは、無念にも大切な人を失われた方もあったろう。それでも、いま生きている私たちは、“少林寺拳法魂”をもって力強く前進していくことである。▶道臣は敗戦の焼け野原に立ち、志一つ抱き、たった一人で祖国復興のための人づくり運動に取りかかった。その志を受け継ぐ私たちも、力強くこの運動を推し進めていこうではないか。合掌(い)

表　紙▶三野智大　北海道出身。専門学校札幌ビジュアルアーツ卒業。2016年３月より「ダーマ」をテーマに「あ・うん」の表紙撮影に取り組む。正拳士四段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶
https://www.shorinjikempo.or.jp/religious/
管長法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅　検索

あ・うん　金剛禅総本山少林寺広報誌
vol. 79
2021 霜月・師走

2021年11月1日発行
発行人：大澤　隆
発行所：金剛禅総本山少林寺
〒764-8511
香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48
☎0877-33-1010
https://www.shorinjikempo.or.jp
編集人：飯野貴嗣
印刷・製本：株式会社ムレコミュニケーションズ

広報誌『あ・うん』追加発送について

現在、広報誌『あ・うん』は、道院の在籍門信徒数に応じて10～20部ずつ、一般財団支部は１部ずつ、毎号ご提供しております。さらに追加をご希望の方は、本山布教課にお申し出ください。
TEL.0877-33-1010
e-mail：aun@shorinjikempo.or.jp

一期一笑（いちごいちえ）

イラスト／大原由軌子

南部道院　道院長　三前雅信

災害ボランティアを通して学んでほしい

１９９５年の阪神淡路大震災をきっかけに、地元消防団の班長であった尾崎副道院長を隊長に「誰もやらなくてもやる」をモットーに紀州梅の郷救助隊を設立しました。和歌山県は災害が多い地域で、大規模な災害が発生する可能性も高いため、県民の協力で迅速に応急対策ができるよう災害ボランティア登録制度があります。金剛禅総本山少林寺南部道院の同志を中心に結成し、救援ボランティアチームに登録されています。現在では近隣のみならず、全国に１５０名以上の仲間がいます。

設立以来、東日本大震災をはじめ、地震や豪雨、台風災害で被害をうけた地域に出動し、人命救助、瓦礫の撤去や炊き出しを行っております。これまで、17都道府県29市町村に56回出動し、延べ４００人以上が災害支援活動を行ってきました。

現在はコロナ禍の影響で、ワクチン接種を終えていない隊員が活動できないため、活動は控えております。しかし近年台風や大雨による災害は頻度を増しております。子どもたちにも防災意識をもってもらうためにジュニア救助隊を立ち上げました。これは子どもたちがボランティア活動をするのではなく、有事の際は「自分の身は自分で守る」ための行動がとれることを目的に募集をはじめました。

自分の身を守るための行動を学び、大人たちの活動を肌で感じ、自分以外の人を守れるよう成長した暁には、立派な紀州梅の郷救助隊の隊員として、被災した方たちに貢献してもらいたいと願っております。

「半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」

紀州梅の郷救助隊　検索

投稿大募集　道場や拳士のちょっといい話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48　金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛　TEL.0877-33-1010　FAX.0877-56-6022　e-mail：aun@shorinjikempo.or.jp

宗門の行としての少林寺拳法

受けて応じる修練を通して教えを身につける

攻撃を“受ける”、“受けて応じる”という技術修練を通して教えを身につける。護身の技術を身につけることが目的ではない。あくまでも、金剛禅の教えを身につけることが目的でなくてはならない。

→詳細は７ページ「宗門の行」へ

三合拳　下受順蹴

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイトで
動画をご覧いただけます。

金剛禅　検索

文／中川　純　　演武者／飯野貴嗣　准範士七段、内藤大将　大拳士五段

SHORINJIKEMPO
少林寺拳法

金剛禅総本山少林寺のSNSも、ぜひご覧ください。